

松本大学

大学案内 | 2015 Campus Guide

MATSUMOTO UNIVERSITY



学校法人松商学園

松本大学

大学院〔修士課程〕 ●健康科学研究科

総合経営学部 ●総合経営学科 ●観光ホスピタリティ学科

人間健康学部 ●健康栄養学科 ●スポーツ健康学科



学校法人松商学園

松本大学松商短期大学部

●商学科 ●経営情報学科

学生 × 地域

人と人とのつながりから育まれるコミュニケーション。

学部や学年を越えた学生と学生とのつながり、

幅広い年代にわたる地域で生きる人々とのつながり、

コミュニケーションを重ね、その経験から生まれてくるのが、

地域が望む、真の人間力です。

松本大学は、地域の現実と関わりながら、

課題を見つけ、考え、解決する。

こうした未来を切り拓く力を育み、

一人ひとりが成長していく大学です。



×大学

Contents

02	【巻頭特集】 「学生×地域×大学」 独自の人間力育成プログラム	38	■人間健康学部	71	キャリアサポート
04	地域づくり考房『ゆめ』	40	■健康栄養学科の学び	72	キャリア支援
08	地域健康支援ステーション	42	カリキュラム	74	入学前教育・基礎教育の充実
10	地域連携活動	43	アウトキャンパス・スタディ	76	教員免許・資格取得
14	大学COC事業に選定	44	ゼミナール紹介	78	国際交流
15	「マツナビ」学生インタビュー	45	在学生メッセージ	79	キャンパスライフ
16	理事長・学長メッセージ	46	就職データ	80	生活エリア
17	松本大学のポリシー・沿革	47	活躍する卒業生	82	大学生生活
		48	■スポーツ健康学科の学び	84	クラブ&サークル活動
		50	カリキュラム	87	年間行事
18	学部・学科INDEX	51	アウトキャンパス・スタディ	88	通学・松商学園系列校
		52	ゼミナール紹介		
		53	在学生メッセージ	89	入試インフォメーション
20	■総合経営学部	54	就職データ		アドミッションポリシー
22	■総合経営学科の学び	55	活躍する卒業生	90	入試の種類
24	カリキュラム	56	■松商短期大学部	91	学費免除・奨学金制度
25	アウトキャンパス・スタディ	58	フィールド・ユニット制カリキュラム	92	2015年度入試日程・学費
26	ゼミナール紹介	60	フィールド紹介	94	入試 Q&A・資料請求方法
27	在学生メッセージ	65	アウトキャンパス・スタディ	95	アクセス・ロケーション
28	就職データ	66	ゼミナール紹介	96	オープンキャンパス・ 入試相談会 2014
29	活躍する卒業生	67	就職データ		
30	■観光ホスピタリティ学科の学び	68	■大学院 健康科学研究科		
32	カリキュラム				
33	アウトキャンパス・スタディ				
34	ゼミナール紹介				
35	在学生メッセージ				
36	就職データ				
37	活躍する卒業生				

学生
×
地域
×
大学

地域の学びを通して、 社会の最前線で活躍する人になる。

日本のほぼ中央に位置し、豊かな地域社会を築いてきた信州。

松本大学は、こうした地域の文化、経済、生活などの中にテーマを見だし、それらを生きた教材とした独自の学びを行っています。

キャンパス内で理論を学び、地域をフィールドに実践・研究し、大学に戻って成果を検証・確認する。

こうした大学と地域を有機的に結びつけた学びは、学生一人ひとりの学習への意欲を高めるとともに、基礎学力、専門知識に加え、社会で求められる社会人基礎力を養います。

松本大学ならではの学びが、国内はもちろん海外でも、そしてどんな業界・職業でも活躍することのできる、真に必要とされる人材を育成します。



松本市からのメッセージ

松本市長 菅谷 昭氏

次代を担う若者たちへ

松本市では、平成23年3月に策定した総合計画において、「健康寿命延伸都市・松本」を将来の都市像として掲げ、この実現のため、6つのまちづくりの基本目標を定め、経済、産業、観光、教育、環境、都市基盤など様々な分野が連携し、「心と体」の健康づくりと「暮らし」の環境づくりを一体的に進めており、平成25年3月には「健康寿命延伸都市」を宣言し、更なる推進に取り組んでいます。

基本目標の1つに「魅力と活力にあふれ、にぎわいを生むまち」がありますが、その実現のためには、松本地域の大学の人材、知的財産などの特色を活かしながら、産学、行政が一体となってまちづくりを進めていくことが重要であることは言うまでもありません。

松本大学は、開学以来、建学の理念として「地域を活かす、人づくり大学」を掲げられ、コミュニケーション能力を高めるための実践的なカリキュラムを導入し、幸せな地域社会づくりへ貢献することを目指す様々な取り組みによる数多くの成果は、今や全国から注目されて

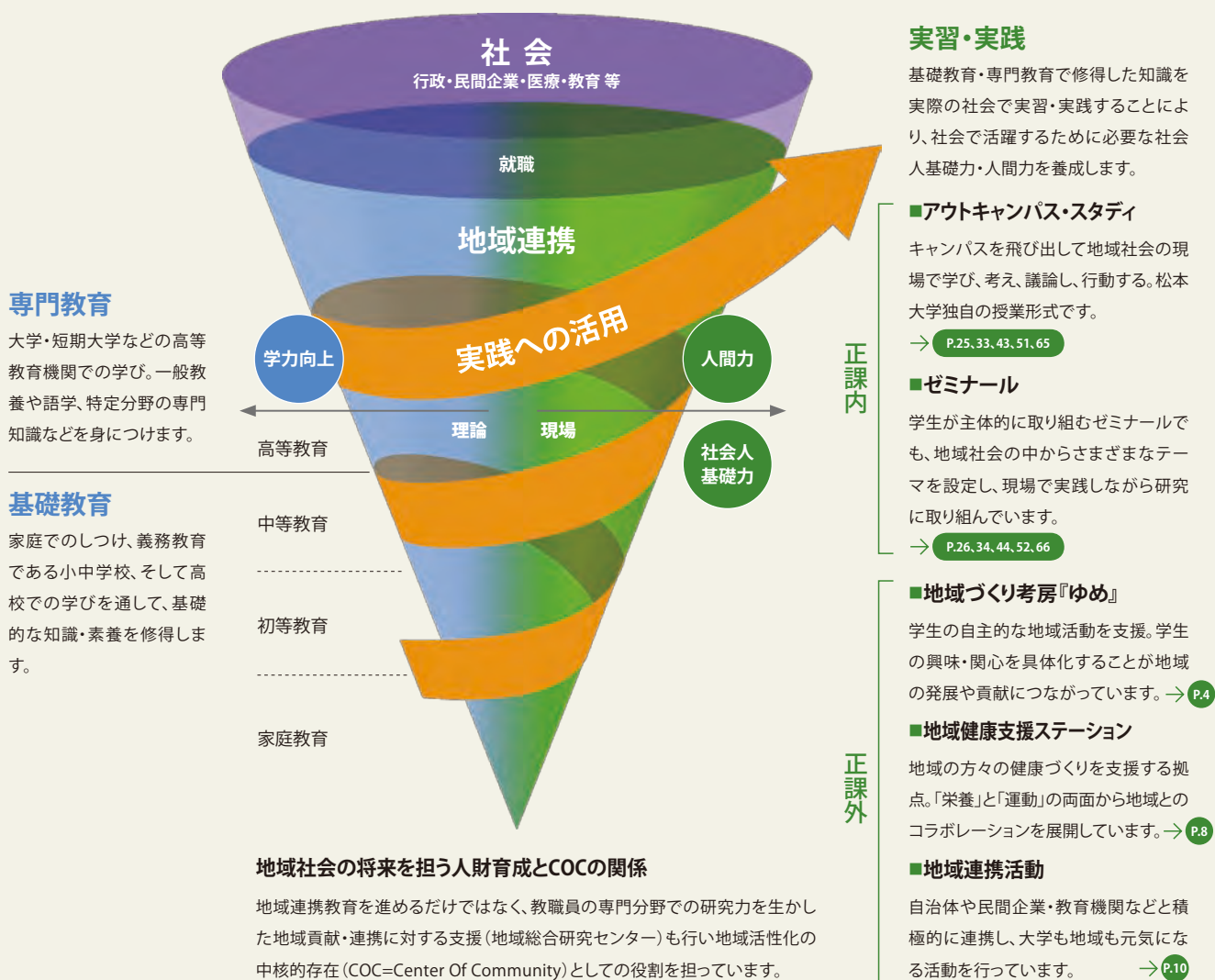
います。

また、社会に貢献するという志が醸成され、優れた人材がより多く地域、社会へと還元されていることは、松本大学がこの地域の最高学府として重要な存在であるとともに、「健康寿命延伸都市・松本」の創造の一翼を担うものであると感じています。

「若い」は、「若しくは」につながる可能性の言葉であり、若者たちのフットワークと「優れた才能」、「大いなる希望」、そして「ゆるぎない勇氣」に期待するところです。そして、大学キャンパスを拠点に人と自然が豊かな長野県全体を研究のフィールドとして、一人ひとりが、併せ持つあらゆる可能性を大いに発揮されることを確信しています。

新たな知恵、知識、視点で、この超少子高齢型人口減少社会が幸せで、活力にあふれる社会になるための方向、答えを導き出し、社会の各分野で活躍する次代を担うエキスパートへと成長されることを心から願っています。

人間力育成の構図



■地域づくり考房『ゆめ』

学生と地域をつなぐ場、それが、地域づくり考房『ゆめ』です。
大学で学んだ専門知識を地域づくりの中で実践し、地域社会でどう活かすのかを学びます。

地域人としての自覚や人間性を養う学びの場

地域づくり考房『ゆめ』では、右記の4つの活動を展開し、学生は自分の興味・関心に合わせてプロジェクトに参加したり、新たにプロジェクトを立ち上げたりします。大学で学んだ知識や技術を地域づくりの実践の場で活かすことで、学生は地域人としての自覚や、豊かな人間性を身につけていきます。各プロジェクトは学生の自主性により運営されますが、教員が適宜アドバイスや指導を行い、高い教育効果が得られるようにデザインされています。



『ゆめ』のキャラクター「こう坊」

地域づくり考房『ゆめ』の4つの活動

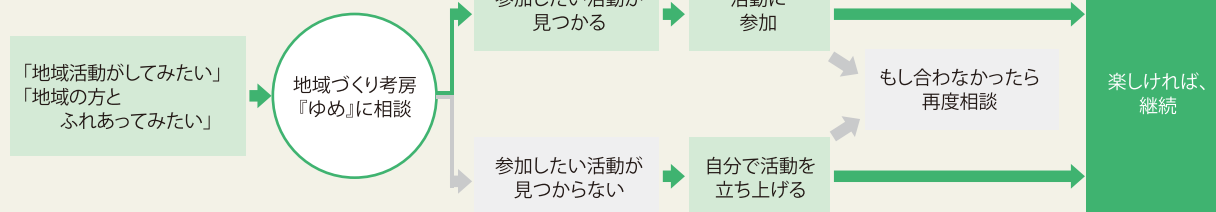
学生の関心、問題意識から生まれた企画実践

地域との協働でプロジェクトを企画実践

地域で企画される活動への参加・支援

地域づくり考房『ゆめ』の自主事業

活動の始め方



考房『ゆめ』を支える学生スタッフ

学生目線でプロジェクトの活動をバックアップ



学生の地域活動を学生の視点でバックアップするのが学生スタッフの役割です。4月には新入生に『ゆめ』の活動を紹介する「ゆめカフェ」をプロジェクトリーダーと共に開いたり、年2回全『ゆめ』プロジェクトメンバーが集まる研修会や交流会を企画・運営。さらに昼休みに常駐し学生の対応をしたり、新聞から地域活動掲載記事や参考記事を収集し掲示・整理しています。



コミュニケーション力が磨かれ就活にも役立ちます。

原 侑子さん

観光ホスピタリティ学科4年 長野県伊那弥生ヶ丘高等学校出身

交流会や研修会などのイベントを企画して、学生と地域をつなぎ、プロジェクト同士の交流を図るのが学生スタッフの仕事です。さまざまなプログラムの学生や地域の方と関わるため、とても幅広い人脈ができるのが魅力です。ここで磨いたコミュニケーション力は、今後の就職活動や社会人になった後も、活かせると感じています。

産学官民協働事業って何だろう？

松本大学に地域から寄せられるさまざまな要望に応えることで、学生たちは地域社会の現状と課題に気づきます。そこから生まれた学習意欲が自らの成長を助け、地域を元気にするだけでなく、持続的な地域づくりにもつながります。学生・大学・地域の各々にメリットがある、大学が長年積み重ねてきた成果です。



地域のニーズに合わせ、 一つのプロジェクトがさまざまな地域課題に挑戦

キッズスポーツスクール 活動の目標 運動好きな子どもたちを育成支援

「キッズスポーツスクール」は、地域づくり考房『ゆめ』の開設時から活動を続けているプロジェクト。もともとは、自分たちが関心あるスポーツの楽しさを子どもたちに伝えることを目的に開始しましたが、最近では活動の幅を広げ、地域と協働でプロジェクトに取り組むなど、さまざまなことに挑戦しています。自分たちの関心ある活動だけに終始していると、自己満足で終わってしまう可能性もありますが、こうして多様な活動を展開することで、地域との関わりがより深く、広くなり、新たな気づきも生まれ、それが普段の活動をさらに豊かなものにしてくれます。

このように、活動を通して地域で本当に求められていることに気づき、さらに活動を発展させることができるのは、サークル活動にはない『ゆめ』ならではの特徴です。

学生の関心、問題意識から生まれた企画実践

子どもを対象としたスポーツスクールを年間を通して開催



「キッズスポーツスクール」の通常活動となるのが、月に2回の運動あそび教室の開催です。子どもたちに運動の楽しさを伝え、運動を始めるきっかけをつくることを目的としています。

対象となるのは3～6歳の子どものうちとその兄弟。土曜日の午前中に大学の体育館やグラウンドを利用して、新聞紙やタオルなど身近にあるものを使った運動や、ボール運動、バランス運動など、毎回テーマに沿った運動の指導を行っています。

2013年は全17回を開催。参加してくれた子どもの保護者の方からは、「子どもがとても楽しそうにしていた」「今後も親子で参加できる企画を楽しみにしている」など、ご好評をいただいています。学生にとっては、運動指導や地域づくりを実践的に学ぶ場となっています。

地域との協働でプロジェクトを企画実践

松本市などとの協働により 公共交通利用拡大にむけ実践



市民が公共交通に触れるイベントにて、のりものラリーを企画。松本市、NPO法人、信州大学生と協働で、企画・運営に取り組みました。

地域で企画される活動への参加・支援

鎌田児童センターで小学生対象に 出前スポーツスクールを実施



松本市の児童福祉施設「鎌田児童センター」からの依頼を受け、出前スポーツスクールを実施。2013年は合わせて5回のスクールを行いました。

地域づくり考房『ゆめ』の自主事業

地域をつなぐ ファシリテーターに挑戦



『ゆめ』が主催するイベント「地域フォーラム」で、「こどもが育つ地域の環境づくり」をテーマにした討論会を企画し、ファシリテーターを担当しました。

大学の授業＋αの学びが経験できます。

廣岡 帆晴さん(写真右) スポーツ健康学科3年 群馬県立伊勢崎清明高等学校出身

もともと子ども好きなので、最初は「子どもと関わって楽しい」という気持ちで参加していましたが、活動が続けるうちに、より多くの人に参加していただくには、保護者の方の満足度も重要だと気づきました。そこで、そうした企画を考えるようになり、視野がぐっと広がりました。『ゆめ』の活動は、大学の授業に活かせるだけでなく、それ以上の学びがあるのだと、活動を通して実感しました。

1年次から学びを实践できる機会があります。

片瀬 咲季さん(写真左) スポーツ健康学科3年 長野県豊科高等学校出身

大学の学びを实践を通して深められると考え、活動に参加しました。授業で実習が本格的になるのは3年次からですが、『ゆめ』でなら、1・2年次から実践的な取り組みができ、非常に力になると感じています。私は「地域フォーラム」でのファシリテーターにも挑戦。多くの学生・社会人の会話をサポートする中で、多様な意見に触れられ、世界が広がったと感じています。



商品開発・販売などを通して、 被災した栄村の復興を支援

ええじゃん栄村

活動の目標 栄村復興支援

2011年3月12日、長野県北部地震で被災した栄村を応援したいという気持ちから、学生有志が立ち上げたプロジェクトが「ええじゃん栄村」です。

震災直後には復興支援として、栄村産の商品販売や販路の拡大を進め、その利益を被災により全壊した栄村農産物直売所「かあちゃん家」の再建資金として寄付しました。2年目からは栄村からの依頼により商品開発にも着手。「栄おかしくらぶ」と共同で、栄村の特産品である“行者にんにく”を使った3つのお菓子「行者さんのつえんぼ」「おつまみクラッカー」「栄ゆめせんべい」を商品化しました。パッケージに貼るラベルの製作には、プロジェクト外の松大生も参加し、試行錯誤しながら商品化を成し遂げました。現在、2014年6月オープンの「農家カフェ」メニューを考案中。他にも、観光客誘致のために栄村の名所などを明記した「栄村きてみてマップ」の作成や、栄村生活支援への募金箱の設置などにも取り組みました。

また、その他の学生プロジェクトでも、復旧作業や栄村写真展の開催、観光客誘致、雪かき作業、募金活動といった栄村復興支援活動を展開してきました。参加した学生にとっては、「相手に何が必要なのかを考え、それを行動に移す」ことの意義や大切さを学ぶ、貴重な経験になっています。



その他の活動

- 松本大学こどもあそび隊
親同士や親子のコミュニケーションづくりの場「こども広場」の運営。
- ヘルシーメニュー
「食」を通して地域のつながりを広げ、健康な食生活を提供。
- 信濃X
若者の視点で地域の問題・課題を見つけIT（アプリ開発など）を利用して情報発信。
- Sing
聴覚障がい者と交流しながら手話などを学び、聴覚障がいについての理解を広める。
- 松本BBS会
少年少女の良き相談相手、遊び相手として、成長支援や非行のない地域社会の実現を目指す。

地域の高齢者の生活を支える 市民“市場”に参加

おかち町市場

活動の目標 地域の高齢者の生活支援と交流



松本市の徒士町では近隣の大規模スーパーが撤退し、足腰が悪い高齢者が買い物に行ける場がなくなっていました。そこで市民有志が週に1回、1時間だけ「おかち町市場」を開き、野菜や生鮮・乾物などの日用品を販売しています。学生は、そこに売り子として参加しています。市場が開いているのはわずか1時間ですが、50～60人もの人が訪れます。お年寄りや地域の人たちが交流する場としても、かけがえのない存在になっています。

世代も国境も越えた 地域の方との交流を実現

留学生交流ボランティア

活動の目標 地域高齢者との交流



ともに同じ時間を過ごし、親交を深めることを目的に、地元の介護老人保健施設「山望苑」の利用者の方と本学の留学生との交流を図る活動です。かつて中国で仕事をされていた高齢者の方が住んでいた町が、偶然にも中国からの留学生の故郷であったことから会話が弾むなど、短い時間ながらも松本大学と地域の方々との親交を深めるだけでなく、日中友好にもつながったケースもあります。

福祉施設を利用する高齢者に 歌声で癒しを届ける

福祉施設でのアカペラコンサート

活動の目標 高齢者福祉への貢献



有料老人ホームなどを提供する複合福祉施設「セントラル・ビオス」で、アカペラ同好会の学生がコンサートを開催しました。これは、同施設を手がける株式会社ウェルライフ信州に勤務する、本学卒業生の依頼で実現した企画。新旧の名曲9曲をアカペラで発表し、施設を利用する高齢者のみなさんと一緒に歌いながら、楽しいひとときを過ごしました。利用者からは「若い学生さんの声に心が癒されました」といった声が寄せられました。

その他の活動

- わおん♪自然探検隊
- 上土よいまちクラブ
- 新村館編集委員
- くれき野やさいクラブ
- 波田サッカークラブ
- 無料こどもじゅく
- 松本神社神輿渡御
- フリマネット信州
- 塩尻プレーパーク
- ものづくり子ども博物館
- 山望苑お散歩プロジェクト
- ICFAピースクラブ
- 新村児童センター
- アースデイまつもと
- 新村地区初級パソコン教室
- えんぱーくサイエンス教室
- 他

地域との協働でプロジェクトを企画実践

地域への想いを語るインターネット放送番組づくりを 市民団体とコラボレーション

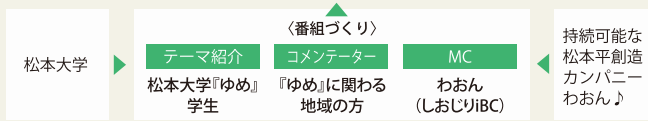
インターネット配信番組「じもとーく」

活動の目標 地域活動の紹介番組で地域課題を配信

環境教育や地域コーディネート事業などを行う市民団体「持続可能な松本平創造カンパニーわおん♪」と連携し、インターネット配信番組「じもとーく」を開始しました。毎回『ゆめ』のプロジェクトの一つを取り上げ、学生がその活動について紹介します。初回となった2014年3月8日の配信では、安曇野市の少年院・有明高原寮で寮生の悩みを聞くなどの支援を行う「松本BBS会」を紹介。松本BBS会で活動する学生や、コメンテーターとして松本BBS会会長の小松寿美氏が出演しました。今後も続々と『ゆめ』の活動を紹介予定。番組は、隔月の第1土曜日の午後からUstream（ユーストリーム）で視聴できます。



Ustream などで放送配信



これまでに取り組んできた産学官民協働事業

●米粉PROJECT

塩尻市や大町市で行政や企業と一緒に米粉を使った商品開発や食の体験メニューづくり。

●古い電車で新しい語らいの会

地域住民、松本電鉄職員と一緒に古い電車で縁側カフェを実施。

●新村音楽祭

学生が実行委員として加わり、地域の方と一緒に企画・運営。

●松本かえるまつり

店主や信州大学生と一緒に祭りを企画・運営し、賑わいを創出。

●お店で楽しい縁側づくり

大学近くにある昭和の面影を残すお店で店主・地域住民・学生と一緒に縁側ひろばを創出。

●33（ミミ）がわりプロジェクト

学生・親の会・NPO法人と協働でパソコンで要約筆記を行い難聴児童などを支援。

●木曾漆器による賑わい創出プロジェクト

学生の新しい視点で地域の魅力を発見し、地域づくりを進める。

●信州あづみの光城山プロジェクト

地元の方の話や散策を通じて、里山の魅力を冊子やマップにまとめ地域の方と共に紹介。 他

地域づくり考房『ゆめ』の自主事業

地域の連携・協働を実現し、活動を活性化させる地域づくりの要、 「地域づくりコーディネーター」養成講座を開講



地域づくりコーディネーター養成講座

活動の目標 地域をつなぐ人材育成

地域や社会の中にあるさまざまな問題を解決するためには、人々が分野・組織・機関を越えてつながり、協働することが必要です。そこで地域づくり考房『ゆめ』では、地域の資源（ヒト・モノ・コト・カネ）を掘り起こし、つなぐ役割を担う人材「地域づくりコーディネーター」の養成・認定に取り組んでいます。

講座は学生のみならず広く一般にも開放。講義や演習、コーディネートの実践、プレゼンテーションなどのプログラムを約1年かけて受講し、地域づくりコーディネーターに必要な知識や素養を学びます。

若者と地域住民が出会い 世代を超えて交流する場を創出



地域フォーラムの開催

活動の目標 世代を超えた交流の場の創出と異文化理解

さまざまな分野で地域活動を進めている若者と、地域の方々との出会い・語らいの場を創出し、世代を超えた相互理解を図ることを目的に、2014年3月2日、本学にて「地域フォーラム」を開催しました。県内外から学生50人、大学関係者7人、NPO・自治体関係者や企業・行政職員等73人の、合わせて130人、10代～80代までの世代が集結。本学学生がファシリテーターとなり、さまざまなテーマについて語り合う「ワールド・カフェ」、「地域活動講演会」、名刺交換・交流会が行われ、持続可能な地域づくりのきっかけとなりました。

その他の活動

●松本大学地域づくり学生チャレンジ奨励制度 ●とも学び講座 ●地域づくりセミナー・フォーラム ●まちの縁側茶会 サロン 他

■地域健康支援ステーション

栄養と運動の両面から地域の健康づくりをサポートするとともに、
大学で学んだ専門知識・技術を活かして実践し、現場で活躍するための能力を育成。

企業・団体からの依頼を受け学びを実践

地域健康支援ステーションでは、現場で力を発揮できる管理栄養士・健康運動指導士を育成するために、地域と連携し、地域の中で学びを実践する場を創出しています。

地域の企業や団体から依頼を受けて、教員の指導のもと、管理栄養士スタッフと健康栄養学科の学生がメニューの開発や栄養指導などに取り組んだり、スポーツ健康学科の学生が、健康運動指導士スタッフと運動指導や体力測定、有線放送の番組出演などを行っています。

主な事業は「指導事業」「啓発事業」「広報事業」「卒業生フォローアップ事業」の4つ。地域の健康づくりに貢献するとともに、学生が実地に学ぶ教育の場として活用し、また就業してから現場で活躍するための実践力を養っています。



指導事業

個別指導・集団指導・講演・セミナー・スポーツ栄養サポートなどを行います。

啓発事業

指導用の資料作成・指導媒体(教材)の開発・メニュー考案などを行い、それらを介して幅広い教育を実践します。資料等の一部は学生が作成し教員やスタッフが監修します。

広報事業

管理栄養士や健康運動指導士の存在や役割の広報を目指します。

卒業生フォローアップ事業

卒業した学生を中心に、最新の知識の習得やキャリアアップをフォローします。

地域の健康を支える保健指導員のための

運動と栄養の両面が学べる研修を人間健康学部の学生がサポート



御代田町保健指導員の研修会を開催

活動の概要 健康推進活動

御代田町からの依頼を受け、保健指導員の研修会を大学にて開催しました。保健指導員とは、家庭や地域で活かすことのできる保健知識を学習し、それを広めていくために各地域で養成される人材です。健康診断などの際には地域の保健師の介助をする地域もあるようで、主に一般の主婦などから選ばれています。

研修会では、午前中に体力測定を、午後は栄養指導を実施しました。このように運動と栄養の両面を一度に学べる機会は少なく、本学での研修会は非常に有益だという評価をいただいています。

体力測定はスポーツ健康学科の学生が、栄養指導では健康栄養学科の学生がサポートに入りました。地域の方にどう指導すれば的確に伝わるのかは、経験してみないとなかなか実感できません。学生はこうした実践経験を積み重ねることで、プロフェッショナルとしてのスキルを身につけていきます。



高校運動部への栄養サポートを通して、 自主学習の習慣を身につける



県内5つの高校運動部に対して栄養サポートを実施

活動の概要 栄養教育活動

県内の5つの高校(松本深志・須坂・諏訪清陵・長野吉田・上田)で、野球部・剣道部の部員やその保護者に向けて栄養サポートを実施しています。健康栄養学科の3・4年生を中心にチームを編成し、年間を通して栄養講座や調理実習などに取り組みます。

長野吉田高校野球部を例にとると、6月の集団栄養講座に始まり、夏の大会を前にした7月には試合直前の食事の摂り方を指導。新チームになった8月には保護者向けの栄養講座を行いました。

各講座では学生が部員達からの質問に答えたり、冬のトレーニング期に行う調理実習では各テーブルについて包丁の持ち方から細かく指導を行います。部員達に的確なアドバイスをするには、専門的な勉強を積み重ねる必要があるため、学生にとっては自力学習の習慣がしっかり身につきます。また、年間を通したサポートをする中で、選手達の身体が、大きく強く成長するのを目の当たりにするため、学生は、大きな達成感が得られ、その後の学びに向かうモチベーションにもなっています。

J2・松本山雅FCのスタジアム弁当の提案を通して、 管理栄養士業務の一端を学ぶ

MATSUMOTO
Yamaga F.C.



TOFU どーなつ(スタンダード ver.)



山雅っ子ポタージュ



ピザ風おやき



てりやきチキン丼



そば粉と抹茶のうずまきクッキー



はちみつレモンゼリー



安曇野ピリカラきゅうりバー



ガンズくんのしっぽ



山雅ラッキー Win ソーダ

J2・松本山雅FCのスタジアム弁当を提案

活動の概要 レシピ提案活動

J2・松本山雅FCのホームスタジアムで、来場者に販売される弁当などのメニュー提案を、2011年より行っています。健康栄養学科とスポーツ健康学科の学生が、メニューの考案から、試作、試食会、出展業者へのプレゼンテーションまでを手がけます。

2013年は14の新商品が採択されました。信州ポークと特産品のわさびを使った「さびさび信州ポーク丼」など、長野の特産品などをふんだんに取り入れたメニューは、地元の食材の良さに気づいてもらおう

という狙いもあります。

メニューづくりでは、来場者のニーズを考慮し、さらに、大量調理に向かうかどうかを考えることも大切です。将来、管理栄養士として給食管理業務に携わる学生も多いため、こうした実務経験は重要です。また、出展業者からはプレゼンテーション参加料やメニュー採択料もいただいており、ビジネスとして本気で取り組んでいます。学生にとっては仕事の厳しさややりがいを経験できる貴重な機会にもなっています。

■ 地域連携活動

自治体・地元企業・各種団体などと連携し、魅力ある地域づくりに貢献。
その取り組みは、長い年月の中で確実に地域の方たちの理解を得ています。

約10年もの歳月の中で培った大学と地域の絆が 住民を動かし、まちを活性化

まちづくりコミュニティカフェ・上土日

活動の目標 地域活性化



約10年にわたる上土町とのコラボレーション

観光ホスピタリティ学科の白戸ゼミでは、2005年から上土町と連携して、まちの活性化や商店街の振興に学生たちとともに取り組んできました。

最初は町内清掃など地道な活動から開始し、親子を対象とした「レトロ探検スタンプラリー」、老舗菓子店と連携した「スイーツラリー」などを歴代ゼミ生が企画・運営。次第に、まちの方々からの信頼も得られるようになってきました。

地域の方々が集まれるカフェの運営を開始

そして、2012年から始まったのが、「コミュニティカフェ・上土日」。お年寄りを中心とした地域の方々がコミュニケーションできる場として、カフェを運営しようというプロジェクトです。クリスマスにはリースづくり教室、バレンタインデーにはスイーツ教室、こどもの日には駄菓子の販売など、季節に合わせたイベントを企画・運営。2013年に実施した企画は、合計8回を数えました。学生たちは、会場の準備から、集客のためのチラシづ

くり、当日の運営・接客まで、すべて自分たちで取り組んでいます。

学生たちの継続的な活動により、まちも変わり始めています。古い商店街の雰囲気を活かそうと、「大正ロマンを学ぶ学習会」を開催。外部講師を招いての一般公開講座も企画しました。もちろん、この学習会にも白戸ゼミの学生が参加。最近では、テレビ、ラジオ、新聞などに頻繁に取り上げられるようにもなりました。白戸ゼミの継続的な取り組みが、実を結び始めています。



町の人たちと心が通じる 嬉しさがある

濱 由佳子さん

観光ホスピタリティ学科4年
松商学園高等学校出身

カフェの企画は学生だけでなく、町の人たちと話し合いながら考えています。いろいろな世代・立場の人から、さまざまな意見が直接聞けるので、視野がとても広がり、自分自身の成長を実感しています。回を重ねるごとに、上土町の方たちと心が通じ合うのも感じられ、とても嬉しくやりがいを感じます。

地域とのさらなる連携

地域と協力し駅弁開発



観光ホスピタリティ学科の学生が、松本市やJA松本ハイランド、企業と協力して、駅弁「城下町のおごっつお」を開発。観光客に松本の食文化を楽しんでいただくために、塩尻・松

本のグルメ「山賊焼」や、松本産の原材料を使用した品々を詰め込みました。開発に際しては、約半年間で20回を超える会議等を実施し、駅弁のコンセプトや内容の検討、試食評価などを行いました。2013年11月16日から販売され、毎回1時間以内で完売する人気を博しています。

人の流出や高齢化などの問題を抱える麻績村を舞台に 学生ならではの視点と方法で地域づくりに挑む

麻績村まちづくり 活動の目標 地域経営

地域の人口減少・高齢化問題の解決に向けて

長野県東筑摩郡麻績村では、人の流出や高齢化によって、農地を管理する人手が減り、このままでは土地が荒れ果ててしまうという問題を抱えていました。それを食い止める方法の一つとして、県が推進する「平成25年度集落“再熱”実施モデル地域支援事業」に応募し、モデル地区に選定されました。

この事業の目標は、“移住者や地元後継者の生計が成り立ち、定住につながる田舎暮らし応援”。その目標に向けた事業のスタートとして行った、地域の現状を把握するためのアンケート調査の集計の依頼を、総合経営学科の矢崎ゼミが受け、室谷ゼミと協働して取り組みました。

集計・まとめ・報告を学生が自らの手で実践

アンケートには世帯用・個人用があり、それぞれの質問項目も多く、集計は大変な作業になりました。それを学生がまとめ、11月には麻績村市野川公民館にて、地域住民の方々への結果報告会も行いました。

アンケートからは、地域づくりに対する住民間の温度差などの課題や、「市野川神楽」という伝統文化に対する住民の愛着やこだわりも見えてきました。今後は、アンケートをもとに学生たちが地域づくりの実践にも取り組む予定です。蕎麦など特産品のネット販売、市野川神楽の有償提供など、具体的な実践案も出てきています。学生ならではのフレッシュな視点で、地域づくりの新たな可能性を切り開くことが期待されます。

人間関係や地域経営を実践的に学ぶサマーキャンプ

他にも、麻績村の聖高原を舞台に、福島第1原発事故の影響で、外で遊べない福島県の子どもたちを招いて行う、3泊4日の「サマーキ



ャンプ」も開催しています。学生と一緒に屋外で思い切り遊んでもらい、日頃のストレスを和らげることと、親のストレスケアが狙いです。2011年の夏から開始し、既に3回を数えています。

学生にとって、信頼関係をどのように構築してゆくのかを実践から学ぶ場となると同時に、村の資源をどのように活用するかを、まさに地域経営の視点から考える場となることを期待しています。



相手に気を配って 話を聞けるように

飯岡 美希さん

総合経営学科3年
長野県松本美須ヶ丘高等学校出身

サマーキャンプに参加した子どもたちは、一緒に遊んでいるときは、笑顔を見せていましたが、夜になるとうなされる子もいて、日頃のストレスの影響を感じさせられました。今回の体験は、カウンセリングの学びの一部を実践するよい機会となりました。

その他の連携協定による活動例

自治体との連携

学生たちが高山市の 観光ガイドマップを作成

岐阜県高山市との連携では、旅行者動態調査・経済効果測定や観光ガイドブック作成に学生が参加してサポート。また観光を学ぶ学生のアウトキャンパス・スタディの場となっています。



企業との連携

池の平の自然環境と 健康運動指導の専門分野がコラボ

白樺湖にある白樺リゾート池の平ホテルと提携して、効果的な健康運動実践法「健康いきいき診断プログラム」を開発。健康ニーズのあるホテル利用客への健康サポートサービスを提供しています。



高校との連携

ともに学ぶために高大連携で 多彩な交流を実施

穂高商業高校との連携では、高校生に大学・短大の実際の授業を体験して大学への理解を深めてもらいます。また、本学学生は高校の簿記担当教員による受験対策講座を受講します。



連携協定先一覧

松本市／安曇野市／塩尻市／飯田市／南箕輪村／生坂村／筑北村／高山市／長野県体育センター／NPO法人熟年体育大学リサーチセンター／社会福祉法人松本市社会福祉協議会／社会福祉法人山形村社会福祉協議会／財団法人長野県中小企業振興公舎／財団法人長野県健康づくり事業団／山形村観光協会／安曇野調理師会／未来につなぐ、きらり輝く大町・松川の会／新村駅舎を残す会／安曇野市商工会／長野県総合型クラブ連絡協議会・長野県体育センター／株式会社長野県民球団／株式会社松山山雅／株式会社 池の平ホテル／グランス株式会社／株式会社オオノタ／株式会社デリカ／長野県穂高商業高等学校／長野県岡谷東高等学校／エクセラン高等学校／長野県丸子修学館高等学校／長野県飯田OIDE長姫高等学校／箕輪中部小学校／放送大学 ほか

安曇野の名産「そば」を使った商品開発で 地域を活性化

6次産業食品開発／信州アルクマそば

活動の目標 食による地域活性化



6次産業を推進する3つのプロジェクト

健康栄養学科の矢内ゼミでは安曇野市商工会などと連携して、6次産業推進事業を展開しています。6次産業とは、農業や林業などの第1次産業が、工業・製造業などの第2次産業を介して、第3次産業の商業にまで展開する多角的な経営形態のこと。1次・2次・3次の数字を足してもかけても6になることから、そう名付けられています。現在は、「そば」「わさび」「規格外農産物」の3つのプロジェク

トを立ち上げ、商品開発に取り組んでいます。

製粉カスを使用したそば粉を開発し、 インスタント袋麺を商品化

「そば」プロジェクトで取り組んだのは、そばの製粉カスを使った商品開発です。これまで肥料などとして利用するしかなかった製粉カスを焙煎して、風味を良くした「焙煎そば粉EX」を開発。中信地区6次産業推進協議会のパートナーである株式会社まるたかや安曇野市の農家と連携し、インスタント袋

麺を商品化しました。さらに、JR東日本長野支社からパッケージデザインのアドバイスを受ける、長野県観光PRキャラクター「アルクマ」を起用した「信州アルクマそば」が誕生しました。

これは当初年間8万食を販売する目標でしたが、14万食を売り上げる人気商品となりました。

開発から製造・販売までを手がける

商品化にあたっては、原材料を大量に生産するためのラインが必要です。そこで大量の製粉カスの焙煎に必要な設備を農家に設置させていただき、学生がそば粉の生産や管理にあたりました。また、安曇野市が開催する「新そばと食の感謝祭」でアルクマそばの販売を実施したり、「FOODEX JAPAN 国際食品・飲料展」にも出展しました。このように、商品の開発だけでなく、製造・販売までを一貫して手がけることで、学生は、将来商品開発などの現場で働く上での実践的な能力を身につけることができます。



地域の健康づくりを担える人材をめざして、 学生が健康講座を企画・運営

健康づくり指導

活動の目標 地域の健康づくり



地域の健康を支える人材を育成

高齢社会を迎えた今日、地域で運動を通じた健康づくりの取り組みが進められています。そこで求められるのが、運動指導・健康指導の専門知識やスキルを持つ「健康運動指導士」です。

健康運動指導士の資格取得をめざす学生が集まる、スポーツ健康学科の根本ゼミでは、地域からの依頼に応じて健康講座を

企画し、主に中高齢者への運動指導を行っています。

現場経験を通して実践力を鍛える

根本教授の指導の下、学生が講座の内容を企画し、長野県内を中心とした各地に足を運び、参加者とコミュニケーションを取りながら講座を運営します。

内容は、体力測定からウォーキングや筋力トレーニング、エアロビクスといった運動

指導までさまざま。場合に応じて個人メニューの作成も行っています。

参加者からは、「学生に会えるのが楽しみ」「これからも続けてほしい」など、ご好評をいただいています。また、学生にとっては、対象者の特性に合う適切な指導方法や、年齢の離れた方々とのコミュニケーションの取り方、仕事に向かう姿勢などを学ぶ、絶好の機会となっています。



経験を重ねることで 指導力が身につきます

布能 雅也さん

スポーツ健康学科4年
山梨県立巨摩高等学校出身

今期は年間15回ほどの健康講座に参加。指導内容は授業で学んだことなので頭ではわかっているのですが、いざ人前で話すと、最初は思うように伝わらず反省の連続でした。しかし、回を重ねるごとにコミュニケーションもスムーズになり、参加者からも「前回のストレッチはすごく良かったよ」と言われることも出てきました。そう言ってもらえるとうれしいし、次回へのモチベーションにもなりました。こうした経験は教室の中では絶対に学べないので、将来に向けての非常に大きな学びになっていると感じています。

今期は年間15回ほどの健康講座に参加。指導内容は授業で学んだことなので頭ではわかっているのですが、いざ人前で話すと、最初は思うように伝わらず反省の連続でした。しかし、回を重ねるごとにコミュニケーションもスムーズになり、参加者からも「前回のストレッチはすごく良かったよ」と言われることも出てきました。そう言ってもらえるとうれしいし、次回へのモチベーションにもなりました。こうした経験は教室の中では絶対に学べないので、将来に向けての非常に大きな学びになっていると感じています。



学生の取り組みに 地域も期待

横山 みゆきさん

スポーツ健康学科2010年卒業
安曇野市職員・健康運動指導士

松本大学を卒業後、安曇野市の職員として地域の健康指導を担当し、お年寄りの方々にも気軽に日常生活の中で

できる運動などを紹介しています。今回、母校の学生たちと一緒に講座を開催しましたが、実践的に学ぶ後輩の姿に行政も住民も期待を寄せています。多くの学生たちに教室で学んだことを、地域で実践して欲しいと考えています。きっと、将来につながる経験となると思います。



文部科学省

地(知)の拠点

文部科学省

平成25年度「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」に選定

地域社会の新たな地平を拓く 牽引力、松本大学

地域の力を結集する拠点

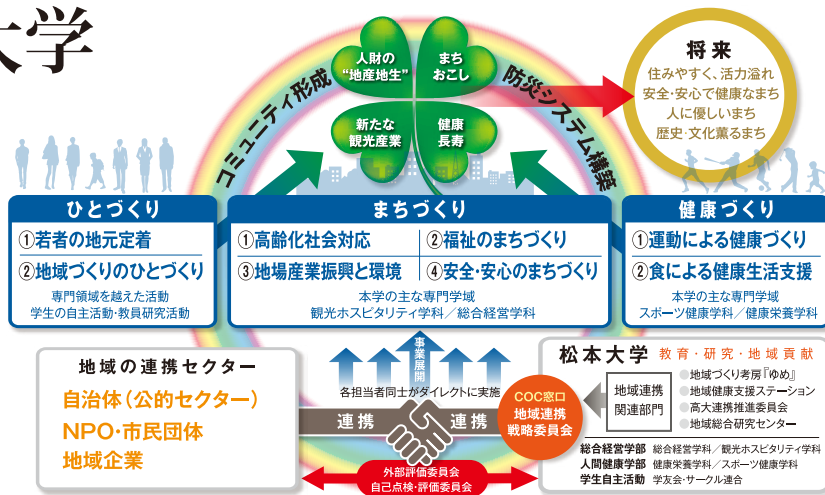
地域課題が多様化し複雑化したいま、その解決への道筋を見出すことは容易でなく、道筋を描けたとしても、その実現にはさらに困難がともないます。地域に散在する力、活性化に向けた力のベクトルをそろえ、それらを結集して課題解決にあたる他ないでしょう。本学はなによりも、そのような態勢づくりの拠点であろうとしています。

地域活動で若者を育てる

本学が展開する幅広い地域貢献活動に学生が積極的に参加・参画し、それはそのまま、地域に貢献できる若者を育成する過程になっています。つまりあらゆる地域貢献活動は、重要な教育の場でもあるという、本学ならではの教育手法です。

松本大学の3つの顔

本学が持つ、研究・教育・社会貢献という3つの顔には、他大学にない大きな特徴があり、この3つの顔が、地域社会というひとつの方向を向いています。だから、地域からは、どの顔もはっきり見えるのです。“ひとづくり”、“まちづくり”、“健康づくり”の取り組みは、本学にあっては、教育であり同時に社会貢献でもあります。



大学COC事業とは

多様で複雑な課題を抱える現代の地域社会において、その課題解決に向けて自治体等と連携しながら地域の拠点となって貢献する大学、地域再生の核になり得る大学を、文部科学省が強力にバックアップするための事業です。

“ひとづくり”の取り組み

大学である以上、人材の育成こそが最優先されなければなりません。本学が目指す“ひとづくり”は、若者と地域住民の両者を対象に進められています。若者の“ひとづくり”は、高大連携を通じ早い時期から地域に目を向けるセンスを養い、高大接続教育へとつなげることに特徴があります。

“まちづくり”の取り組み

「高齢者」「福祉」「環境」「安全・安心」がキーワードです。特に、高齢者の居場所と買い物問題については、地域住民の参加も可能な、特定の地域課題に特化した授業を立ち上げています。いわゆるPBL型の授業で、背

景・問題把握・解決方策・実践・総括という一連のサイクルに沿って、高齢者の買い物問題をあらゆる角度から学び、同時に“まちづくり”を実践しようという計画です。

“健康づくり”の取り組み

健康分野で地域と本学をつなぐ窓口役を果たしているのが地域健康支援ステーションです。ここを拠点に、運動と食・栄養の両面から地域の健康づくりを進めています。たとえば食育活動を精力的に進めたり、総合型の地域スポーツクラブを普及させる取り組みなど、“健康づくり”の活動を県内各地で展開しています。

全国から注目される松本大学の取り組み — 競争的補助金による教育環境の充実

平成15年から23年まで文部科学省が大学・短期大学等が実施する教育改革の取り組みの中から、「優れた取り組み」を選び支援したGP (Good Practice) に、松本大学は大学・短大を合わせて9プログラムが選定されました。この実績は他大学にも例がない高い評価として大きな注目を集めました。



最近でも「私立大学等教育研究活性化設備整備事業(文部科学省)」や、「未来経営戦略(私学事業団)」補助金などで、高い評価による採択を受けました。これによりますます充実した教育環境の整備をはかっています。

採択された「私立大学等教育研究活性化設備整備事業」

- 平成24年度**
- 地域活動を発信し就職支援につなげる「地域連携スタジアム」の整備(松本大学)
 - 1年生全員へのiPad貸与による双方向型授業の展開(短期大学部)
- 平成25年度**
- ラーニングコモンズ機能の拡張による『自主学修空間』の確保と、WEBを活用したアクティブラーニングの展開(松本大学)
 - 深い地域交流と意見交換のための発展的な場づくり(松本大学)
 - 2年生全員への携帯型パソコン貸与による双方向授業の充実と、授業外での主体的な学修(短期大学部)
 - 地域での実践的学習を支援する「ものづくり教室」の設置(短期大学部)

2013 マツナビリーダー

松澤 美咲さん

人間健康学部
スポーツ健康学科3年
長野県下伊那農業高等学校出身

2014 マツナビリーダー

古田 ゆりのさん

人間健康学部
健康栄養学科2年
岐阜県立加納高等学校出身

2011 マツナビリーダー

秋和 理沙さん

松商短期大学部
商学科2012年3月卒業
長野県松本美須ヶ丘高等学校出身

「マツナビ」学生インタビュー 在学生×OG

部活でも学友会組織でもない学生の自治組織『松本大学キャンパスナビゲーター 通称マツナビ (M@tsu.navi)』。本学の特長である『実践教育』の場ともなっているマツナビの活動について、3代のリーダーにインタビューしました。

マツナビに参加したそれぞれの思い

秋和 高校まで、生徒会活動を行っていて、組織を運営したり、組織に貢献できることにやりがいを感じていたので、その延長のような感じでマツナビに参加しました。

松澤 私の場合は、オープンキャンパスへの参加がきっかけです。マツナビの方々がみなさん明るく笑顔で接してくれ、その姿に憧れて自分でもやってみたくと思いました。

古田 私は人と話すことが苦手で、大学では克服したいと思っていました。そんなとき、マツナビの活動を知り、他学科の学生や先輩とも交流できるいい機会だと思い参加しました。

松澤 古田さんと同じような想いで入ってくる人は多いです。マツナビの活動は大変ですが、その分、仲間と助け合い、仲間のことを想う大切さを学べます。

秋和 マツナビが生徒会と違うのは、先生に言われてやるのではなく、自分たちで考えて

実行すること。その分、それを支えてくれる仲間のありがたさはよくわかります。

社会で生きるマツナビの経験

古田 私の場合、人見知りを直すのが目標だったので、マツナビでは誰とでも積極的に話すよう心がけています。おかげでだいぶコミュニケーション力がつき、いまでは「人見知りだった」というと驚かれるほどです。

松澤 私がリーダーを務めた代からは、オープンキャンパスのオリエンテーションをマツナビの学生が担当することになりました。多いときには300人くらいの前で話すので、人前で話す力は相当鍛えられました。

秋和 社会人になりたいま振り返ると、マツナビの経験は社会人としての基礎力になっていると感じます。挨拶一つとっても、いつでもこやかに「こんにちは」と言える人ってそんなに多くはありません。入社後、それができていると先輩から言われたのは、マツナビで多くの人たちをおもてなししてきた経験があったからなんだと思います。

世代を超えて受け継がれる伝統

古田 前リーダーの松澤さんから次のリーダーに指名されたときは、「私でいいんですか?」という気持ちでした。

松澤 古田さんは、とにかくやる気がすごかったです。秋和先輩の代からスタートした連絡ノートにも、提案をびっしり書いていたし、これなら任せられると感じました。

秋和 私の代で始めた連絡ノートもそうですが、みんながマツナビをよくしようと考えて、それが代々続いているのは、とてもうれしく思います。同時に、その年ごとに違う考え方がいて、毎年違うことに取り組んでいる。それがマツナビの特徴だと思います。

古田 先輩の言うとおり、マツナビの進化に限界はないと思っています。先輩方から受け継いだ伝統は守りつつ、一方で、自分たちで考え、自分たちの意思で、新しいマツナビのよさをつくっていきたくと考えています。

OPEN CAMPUS 2014

➡ オープンキャンパスの詳細は P.96 へ



受験生に大学の魅力を紹介

「マツナビ」の活動の中心になっているのは、オープンキャンパスのサポートです。松本大学にお越しいただいた高校生や保護者の方々の受付や誘導はもちろん、学生による相談受け付け、見学のガイドも行っています。



自主的に研修会を実施

「日本一のオープンキャンパスをめざして!」独自の研修会を重ねて当日に臨んでいます。また、東京ディズニーリゾートが開催する研修会への参加や、EQ研修で“心(感情)”の大切さなども学んでいます。



私学としての活力を生かし、 地域社会の核となる大学を目指します。

学校法人松商学園 理事長 藤原 一二

明治31年に青年教育家であった木沢鶴人先生が「自主独立」を掲げ、熱き情熱をもって設立した松商学園は、今年度創立116年目を迎えました。今では大学院、大学、短期大学、高等学校、中等教育学校を擁する総合学園として信州はもとより全国に卒業生を輩出し、地域社会にしっかりと根を張り、その伝統は脈々と受け継がれております。

今、私たちを取り巻く環境は大震災からの復興、少子高齢化による国力の低下、地方社会の衰退、複雑化する国際情勢など多岐に亘る課題が山積しています。このような混沌とした社会では、次代を担う人材を育む教育の力が最も大切となります。今こそ建学の精神に基づき、伝統に裏打ちされた、個性ある教育理念を展開する私学の力が必要とされています。

松本大学、松本大学松商短期大学部は地域のみなさまの厚いご支援を受け、地域貢献を校是の柱として地域社会の振興を担い、社会のニーズに応える活力ある教育・研究に務めております。その姿勢は地方の大学の進むべき一つの方向性を示すものとして全国の大学から高い評価を頂いており、まさに学校法人松商学園の100年を超える教育の伝統を具現化したものであります。

私達は激しく変化する社会に積極果敢に挑戦し、輝く未来を切り開く有為な人材の輩出に学園をあげて精魂を傾けてまいります。



地域の「現場」を認識し、学内で「理論」を深める 独自の課題解決型教育手法

松本大学 学長 住吉 廣行

本物の学力を新しい教育手法で着実に身に付ける

社会の中で生じる問題にいかに対応できるか。正解の定まっていない課題に立ち向かい、それを解決できる力こそが社会で求められる本物の能力です。また、他者との協働、相互理解、それに必要なコミュニケーション・プレゼンテーション技術等、社会に出てからの円滑な人間関係を構築するのに重要な能力です。これらは偏差値や卒業大学名ではとても測れるものではありません。

地域連携を教育活動に取り入れた全国的モデル校

地域社会の問題を解決するという目的が明確だからこそ、意欲的に「専門的学び」を深められます。地域と連携し、「現場」から「理論」へと向かう本学独自の教育手法は際だっており、その全国的モデル校となっています。「文部科学省に勧められた」と、本学を視察に訪れる大学は多数にのぼっています。

都会にはない地域の良さを生かし、充実した学生生活

都会の華やかな大学生活に憧れるのも良いかも知れませんが、高額の生活費を抑え、地元にて海外経験を積んだり、アルバイトではなく自分のやりたいことに時間を注ぎ込む別の選択もあります。都会の大学からも視察に見えるくらいですから、松本大学はそれだけの価値がある大学ですし、地元就職を考えても賢明な選択ではないでしょうか。

沿革

松商学園のあゆみ

- 明治31年 8月 ● 木沢鶴人が松本市上土町(大手4丁目)に私立戊戌学校を創立
- 44年10月 ● 校名を松本商業学校と改称
- 昭和11年 2月 ● 松本市大字筑摩県町(県3丁目)に校舎を新築
- 23年 3月 ● 新学制により松商学園高等学校と改名
- 28年 4月 ● 松商学園短期大学商業科を県(あがた)に開学
- 45年 4月 ● 松商学園短期大学付属コンピュータ・センター設立
- 49年 4月 ● 商業科を商学科に変更
- 52年 9月 ● 短期大学を松本市新村の現在地に全面新築移転
- 60年 4月 ● 2号館校舎完成
- 63年 1月 ● 3号館校舎完成
- 平成 4年 2月 ● 4号館(図書館棟)校舎完成
- 4月 ● 経営情報学科増設
- 5月 ● 信州産業調査研究所を松商学園短期大学総合研究所へ改組
- 10年10月 ● 松商学園創立100周年記念式典挙行
- 13年10月 ● 松商学園短期大学から松本大学松商短期大学部への名称変更が文部科学省で承認
- 14年 3月 ● 松本大学キャンパス完成
- 4月 ● 松本大学開学。総合経営学部 総合経営学科設置
- 15年 9月 ● 松商短期大学部:文部科学省「特色ある大学教育支援プログラム」に選定
- 17年 4月 ● 松本大学総合経営学部:教職課程設置。高等学校教諭一種免許状(公民)設置
- 18年 4月 ● 松本大学総合経営学部を改組。総合経営学科と観光ホスピタリティ学科の2学科制とする
- 松本大学総合経営学部:高等学校教諭一種免許状(情報)(商業)(地理歴史)設置
- 松本大学総合経営学部:司書教諭免許状設置
- 8月 ● 松商短期大学部:文部科学省「特色ある大学教育支援プログラム」2回目の選定
- 19年 3月 ● 松本大学:6号館校舎完成
- 松本大学:図書館増築工事完成
- 4月 ● 松本大学人間健康学部健康栄養学科、スポーツ健康学科設置
- 松本大学総合経営学部:高等学校教諭一種免許状(福祉)設置
- 松本大学人間健康学部:高等学校教諭一種免許状(保健体育)及び栄養教諭一種免許状設置
- 健康栄養学科が厚生労働省「管理栄養士養成施設」に指定される
- 7月 ● 文部科学省「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」の委託事業受託
- 20年 4月 ● 学校法人松本松南高等学校が学校法人松商学園に合併
- 9月 ● 文部科学省「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」に大学、短大ともに選定
- 21年 3月 ● 松商短期大学部:(財)短期大学基準協会による第三者評価で適格と認定
- 4月 ● 松本大学総合経営学部:中学校教諭一種免許状(社会)設置
- 松本大学人間健康学部:中学校教諭一種免許状(保健体育)及び養護教諭一種免許状設置
- 7月 ● 松本大学:文部科学省「大学教育・学生支援推進事業【テーマB】学生支援推進プログラム」に選定
- 9月 ● 文部科学省「大学教育・学生支援推進事業【テーマA】大学教育推進プログラム」に大学、短大ともに選定
- 22年 2月 ● 松商短期大学部:文部科学省「就職支援推進プログラム」に選定
- 3月 ● 松本大学:(財)日本高等教育評価機構による第三者評価で適格と認定
- 4月 ● 松本秀峰中等教育学校開校
- 松本大学人間健康学部:中学校教諭一種免許状(保健)、高等学校教諭一種免許状(保健)設置
- 8月 ● 松本大学:7号館校舎完成
- 23年 2月 ● 松商学園総合グラウンド(400mトラック・サッカー場)完成
- 4月 ● 松本大学大学院開学
- 24年 4月 ● 松本大学大学院:中学校教諭専修免許状(保健体育)、高等学校専修免許状(保健体育)及び栄養教諭専修免許状設置
- 9月 ● 松本大学創立10周年・松本大学松商短期大学部創立60周年記念式典挙行
- 25年 4月 ● 小学校教諭免許取得支援プログラム設置(明星大学通信教育部との教育業務提携)
- 8月 ● 文部科学省平成25年度「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」に選定

松本大学のポリシー

「地域貢献」を掲げて、学生一人ひとりを大切にしたい人間教育を実践

松本大学建学の精神「自主独立」

松本大学基本理念

松本大学設立の趣旨には、本学が「教育・研究を通じた地域社会への貢献を目標としている」とを掲げています。つまり「地域貢献」が本学の基本理念です。

使命・目的

松本大学は、学則第2条に「本学は、教育基本法及び学校教育法の趣旨に則り、本学園創立の精神たる自主独立に基づく人間教育を行うことにより、地域社会の振興と地域文化の発展に資する人材を育成し、もって平和で豊かな社会の創造に貢献することを目的とする。」と使命・目的を定めています。

大学院の理念

松本大学大学院健康科学研究科は、健康維持・増進を図るために栄養や運動を中心とする健康科学について深奥な学識を授けるとともに専門分野における理論と応用の研究能力および実践力を養い、それを備えた高度な専門的職業人を養成し社会に貢献することを目的とする。

健康科学研究科 [修士課程]

「栄養科学」並びに「スポーツ科学」を基盤とし、関連する周辺学術分野と融和した「健康科学」の学術研究教育活動を行い、「健康づくり」という視点から課題を科学的根拠に基づいて適切に把握し、優れた思考と確かな技術を駆使して解決できる、専門性の高い指導的立場の人材を育成する。

総合経営学部の理念

地域社会の総合的運営に関わる研究を推進し、それを基盤に、社会を構成する諸組織体のマネジメントに関する理解と能力を高めつつ、地域社会を総合的に捉える素養と、それにもとづく総合的な経営能力を養う。もって活力ある地域社会の創造に貢献しうる人材を養成する。

総合経営学科

社会一般および地域社会を構成する重要な要素である企業に関わる総合的な経営知識を教授し、地域社会の運営を視野に入れて行動しうる、良識ある企業人の養成を目指すとともに、企業社会で活動するための知識・技術を涵養する。

観光ホスピタリティ学科

ホスピタリティの精神・技術を活かし我が国観光の発展に寄与するとともに、持続可能な観光と福祉社会の基盤となる地域づくりに貢献するため、地域社会全体の運営にかかわる知識・技術を身につけた人材を養成する。同時に、現代的課題である万人対応型の観光に資する能力をも涵養する。

人間健康学部の理念

美しく豊かな自然に恵まれた環境のなかで、創造性に富み、人間性や社会性が豊かな人づくりを目指し、「食と栄養」「運動・スポーツ」を通して社会の活性化を図るとともに、人々の健康の維持・増進を図り、医療・福祉の向上に寄与することを目的とする。

健康栄養学科

- (1) 疾病を予防し、健康を維持・増進する食生活を実現するために、食や健康そして障がいに関わる問題を教育・研究する。
- (2) 人間の栄養状態を的確に把握し、適正化する方法を健康科学の面から探求し、専門分野において社会に貢献できる人材を育成する。
- (3) 人々の健康づくりおよび、地域の活性化に関わる課題を「人間栄養学」の視点から健康と栄養との関係を捉え、総合的に分析、評価できる高い専門性を備えた人材を育成する。

スポーツ健康学科

- (1) 人々の健康づくりおよび、地域の活性化に関わる課題を「運動・スポーツ」の視点から研究・教育する。
- (2) 幅広い教養と人間力を土台に、「運動・スポーツ」を学際的・総合科学的視点から捉え、多角的に分析・把握できる高度な専門性と実践力を備えた人材を育成する。

松商短期大学部の理念

松本大学松商短期大学部は、建学の精神「自主独立」に基づく人間教育を行うことにより、地域産業の振興と地域文化の発展に貢献できる人材を育成することを以て目的とし、「個性豊かな人材」、「地域社会に貢献できる人材」、「職業的に自立した人材」の育成を目指す。

商学科

現代社会の経済システムを動かしている企業や人間のビジネスを理解し、ビジネス社会で活躍する人材の育成を目指して、経済・金融・流通・会計の理論・技法を学ぶことを目的とする。

経営情報学科

現代社会の企業経営を支えている経営理論と情報システムを理解し、中堅企業人として活躍できる人材育成を目指して、企業経営と情報処理の理論・技法を学ぶことを目的とする。



ACCREDITED
2008

平成20年度(財)短期大学基準協会による第三者評価の結果、適格と認定されました。